

## 学習過程と活動例(D領域:ウ)

小P315(第6学年)

**課題**

○1組と2組、読書をよくしたのはどちら？

**めあて**

○様々な視点からデータを  
読み取る

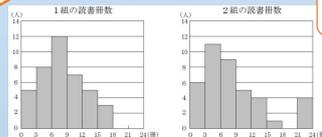
学習の必要感  
をもたせて

**見通し**

○平均値は？中央値は？最頻値は？  
○分布状況は？

方法と結果の  
見通しを

平均1組8.2冊、  
2組8.6冊、本当  
に2組が読書を  
よくするといっ  
ていい？学校図  
書館以外は？



**比較  
検討**

○ある値から得られた考察の妥当性  
を検討 → 多面的な吟味

子どもたちの言葉  
で考えをつなぐ

**振り  
返り**

○学習を振り返る  
・自分たちの問題解決過程を  
批判的に検討



## 5, 主体的・対話的で深い学び

小P317、318

### ○①主体的な学び

算数科では、児童自らが、問題の解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見いだしたりするなど

### ○②対話的な学び

数学的な表現を柔軟に用いて表現し、それを用いて筋道を立てて説明し合うことで新しい考えを理解したり、それぞれの考えのよさや事柄の本質について話し合うことでよりよい考えに高めたり、事柄の本質を明らかにしたりするなど、自らの考えや集団の考えを広げ深める

## 5, 主体的・対話的で深い学び

小P317、318

### ○③深い学び

日常の事象や数学の事象について、「数学的な見方・考え方」を働かせ、数学的活動を通して、問題を解決するよりよい方法を見いだしたり、意味の理解を深めたり、概念を形成したりするなど、新たな知識・技能を見いだしたり、それらと既習の知識と統合したりして**思考や態度が変容**する

①主体的な学び・②対話的な学び



③深い学び(**思考や態度の変容**)につなげるか

31

## 5, 主体的・対話的で深い学び

1. 主体的な学び

### 授業改善

①主体的・②対話的で  
③深い学びの視点

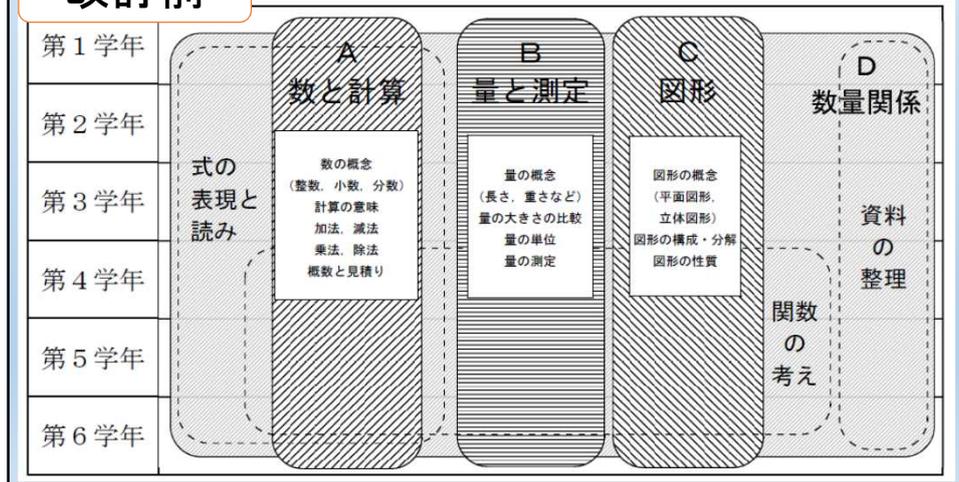
32

## 6, その他

小P38

### ○領域について

#### 改訂前

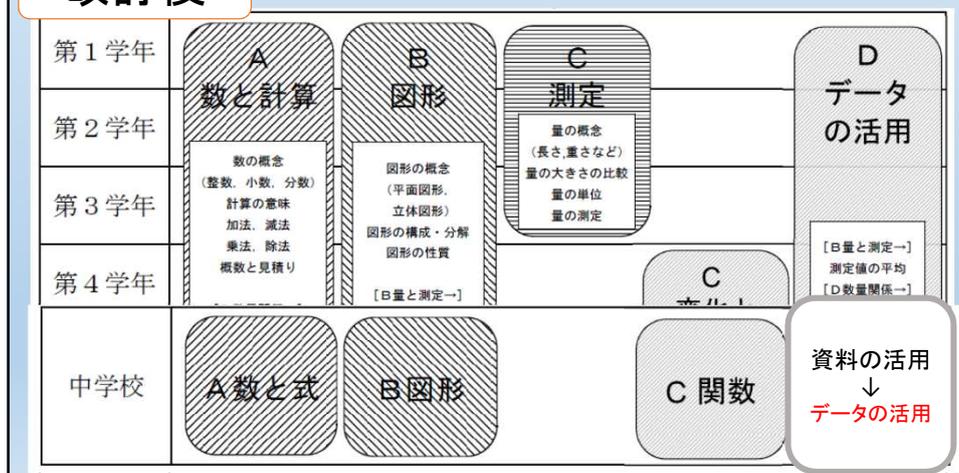


## 6, その他

小P38

### ○領域について

#### 改訂後



## 6, その他

小P63

○領域の見直しに伴って

### C変化と関係(上学年)

変化や対応の特徴を考察すること

二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を割合を用いて比べること

35

## 6, その他

小P67

○領域の見直しに伴って

### Dデータの活用

### 統計的な問題解決活動

「問題－計画－データ－分析－結論」の五つの段階からなる統計的探究プロセス統計的な問題解決活動

問題	・問題の把握	・問題設定
計画	・データの想定	・収集計画
データ	・データ収集	・表への整理
分析	・グラフの作成	・特徴や傾向の把握
結論	・結論付け	・振り返り

36

## 6, その他

小P279 中P54

○領域の見直しに伴って

### Dデータの活用

### 第6学年の目標

適切な手法を選択して分析を行い, それらを用いて問題解決したり, 解決の過程や結果を批判的に考察したりする力を養う

### Dデータの活用

### 指導の意義

適切な手法を選択して分析を行い, それらを用いて問題解決したり, 解決の過程や結果を批判的に考察したりする力を養う

## 6, その他

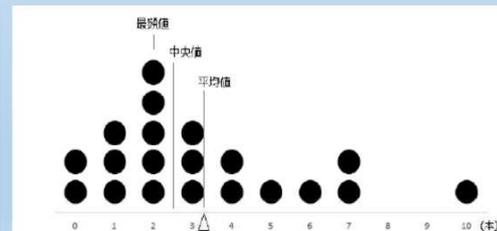
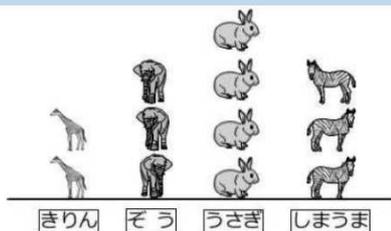
小P94 小P303

○領域の見直しに伴って

### Dデータの活用

### 第1学年の内容

### 第6学年の内容



## 6, その他

小P324

### ○算数科におけるプログラミング教育

(2) 数量や図形についての感覚を豊かにしたり、表やグラフを用いて表現する力を高めたりするなどのため、必要な場面においてコンピュータなどを適切に活用すること。また、第1章総則の第3の1の(3)のイに掲げるプログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けるための学習活動を行う場合には、児童の負担に配慮しつつ、例えば第2の各学年の内容の〔第5学年〕の「B図形」の(1)における正多角形の作図を行う学習に関連して、正確な繰り返し作業を行う必要があり、更に一部を変えることでいろいろな正多角形を同様に考えることができる場面などで取り扱うこと。

39

## 6, その他

小P326

### ○算数科におけるプログラミング教育

正多角形の学習では「正多角形は円に内接すること」を基に定規とコンパスなどを用いてかくことを指導する。コンピュータを用いると、「正多角形は全ての辺の長さや角の大きさが等しいこと」を基に簡単にかつ正確にかくことができる。また、辺の長さや角の大きさを適切に変えれば、ほかの正多角形もすぐにかくことができる。

辺の長さ分だけ線を引き、角の大きさ分向きを変え、これらのことを繰り返すことで正多角形がかける。正方形は90度向きを変えればよいが、正六角形は何度にすればいいのかを考えていく。線の動きを示す指示として「線を引く」「 $\circ$ 度向きを変える」「繰り返す」などの最小限の指示を指定することで、正多角形をかくことができるのである。

算数科ではこのような活動を行うことで、問題の解決には必要な手順があることと、正確な繰り返しが必要な作業をする際にコンピュータを用いるとよいことに気付かせることができる。

40

## 6, その他

小P11

### ○移行措置について（小学校）

移行処置における内容【○：追加内容、●：削除内容】

小学校:算数	小3年	小4年	小5年
平成30年度	○メートル法の単位の仕組み (K(キロ)、m(ミリ)など接頭語 について)←小6年から	○メートル法の単位の仕組み (K(キロ)、m(ミリ)など接頭語 について)←小6年から  ○メートル法の単位の仕組み (長さや面積の単位の関係につ いて)←小6年から	
平成31年度	○メートル法の単位の仕組み (K(キロ)、m(ミリ)など接頭語 について)←小6年から	○メートル法の単位の仕組み (長さや面積の単位の関係につ いて)←小6年から	○メートル法の単位の仕組み (長さや体積の単位の関係につ いて)←小6年から  ○速さ←小6年から  ●分数×整数、分数÷整数← 小6年へ

41

おわりに

42